

## 古川博士の気象コラム

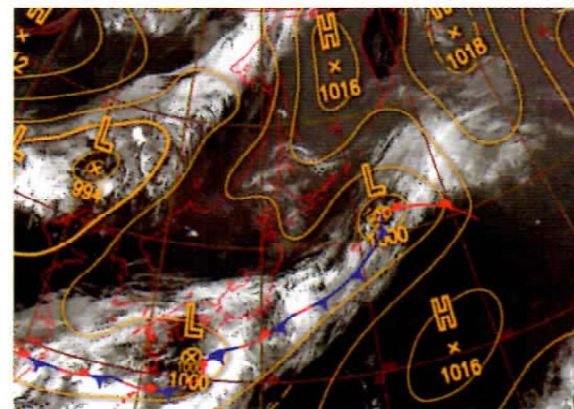


古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

6月に入ると梅雨が気になりますね。梅雨は「春から夏への移行期に、雨が多くなり、日照が少なくなる季節現象」とされています。関東・甲信地方の「梅雨入り」は、例年6月8日頃ですから間もなくです。

梅雨になると、図のような梅雨前線が形成され、それを境に北の「オホーツク海高気圧」から吹きだす冷たい北寄りの風と、南の「小笠原高気圧」がもたらす暖かく湿った南寄りの風が押し合いとなります。前線が本州付近に停滞する

と曇天<sup>どんてん</sup>で雨がちとなり、北に押し上げられると夏のような晴れ間に、逆に南に下がると梅雨寒となります。ときおり前線上に低気圧が発生して東進し、思わぬ大雨をもたら



▲図 (気象庁提供)

らすことがあります。梅雨期には、市街地でも土砂崩れや浸水・洪水に見舞われています。是非、梅雨入りを前にハザードマップなどで自分の周りを点検してください。

「ステイ ホーム」が新型コロナウイルス感染症防止対策の基本ですが、太陽を浴びると体に良いと言われています。紫外線によってビタミンDが生成されてカルシウムの吸収を促し、筋力の増強にもつながり、また朝日は「体内時計」を整えます。梅雨の晴れ間、朝夕に10分くらい日光浴してみませんか。